



赤い三角屋根

■赤い三角屋根が特徴の《支笏湖ユースホテル》が令和3年3月31日に閉館し、60年の歴史に幕を下ろしました。昭和29年、現在のユースホテルの場所にあった支笏湖小学校が新築移転し、旧校舎の払い下げを受けて改装、30年にユースホテル専用の支笏湖ホテルとして開業しました。35年には、北海道を代表する建築家・田上義也の設計により全面改築され、支笏湖の自然環境に調和した「赤い三角屋根」が完成し、日本ユースホテル協会直営第1号のユースホテルとなりました。小さいときに初代管理人をしていた祖父母を訪ね、支笏湖によく遊びにきていました。最後の管理人が私となった寂しさはありますが、還暦まで頑張ってくれた「赤い三角屋根」にお疲れ様といいたいです。(支笏湖ユースホテルは今秋に解体予定です)

支笏湖ユースホテル 元マネージャー (管理人)
きつかわ ひでゆき
 吉川 英之さん

あ
の
と
き
、
あ
の
場
所

瞬きの点景。

SCENERY OF MOMENT

カメラが光を捉えるほんの一瞬。映り込む人物やものごと。千歳ならではの魅力が、残したくなる風景が、そこにある。



8月27日 / 協和で撮影

今月の表紙

10月中旬の収穫に向け、現在は葉の間引きなど、地道な作業を二人三脚で行っている三溝 健雄さん、礼子さんご夫妻。糖度の高いブドウを収穫し、「おいしいワインを届けたい」と笑顔で話してくれました。

■瞬きの点景で紹介している《支笏湖ユースホテル》の話聞いたとき、形あるものはいっつかなくなってしまふものだと改めて思いました。同時に、約3200年前に造られた《キウヌ周堤墓群》が現代まで残っていることは奇跡で、記念物を保存し続けることの難しさと大切さを感じた特集となりました。

■今年のお盆休みの外出はお墓参りだけでしたが、お墓でばったり兄妹家族と遭遇。約束をしない偶然的の再会にも驚きでしたが、物足りない様子だった子どもたちが、一瞬にして笑顔になったことに驚きと喜びを感じました。あの笑顔は、たくさんのお供え物を見たからではありませぬように…。